

メディア（オンライン）授業における 学生への情報保障と合理的配慮

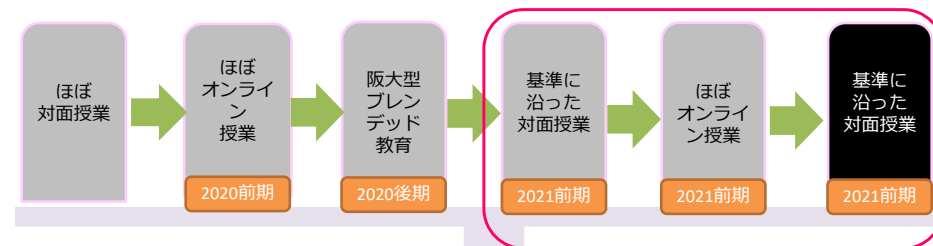
OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター
アクセシビリティ支援室
望月 直人

1

現在の修学環境

新型コロナウイルスの流行 第〇波 大学の活動基準



緊急事態宣言など社会的状況によって、学生も教職員の誰もが振り回されている現状



2

学生や教職員の心身の状態への理解

- 人にはよるが、顕在化しないレベルで疲労が蓄積されている可能性
- 障がい学生は一般学生よりも環境変化に大きな影響を受ける
- 学生だけでなく、教職員も含めて一人ひとりの安心と安全が大切

3

オンライン授業に対する**通常学生**の意識 (東洋大学, 2020)

- 全国15大学の1426名の学生へのweb調査結果（2020年7月に実施）
 - 今後の**オンライン講義希望40%、対面希望33%**
 - 学習効果、授業の集中度は互角
- ◎通学時間の節約
- ◎繰り返し復習が可能
- ◎私語がない
- ×課題の負担が増加
- ×コミュニケーションの不足
- ×自宅だと授業に集中できない
- ×音声や動画が途中で切れ聞き逃すことがある
- ×開始・授業のメリハリがない

4

オンライン授業に対する**通常学生**の意識 (山本・若山・眞鍋ら, 2021)

■名古屋外国語大学の3521名の学生への調査結果 (2020年7月に実施)

- オンライン講義の満足度: **肯定的評価30~40%、否定的評価10~30%** (授業形態、学習環境の影響あり)
- 学習効果: 学習環境に問題がない学生 (全体の75%) → **対面(高)52%、オンライン(高)26%**、両方同じ16%

◎移動・通学の負担軽減

◎自分のペースで学習可能

◎ICTの知識やスキルが高まる

×課題の増加

×自宅だと授業に集中できない・学習のペースがつかめない

×コミュニケーションの不足・孤独 (先生・友人)

×ネット環境の不具合

5

オンライン授業に対する**障がい学生**の意識 (筑波大学・JASSO, 2021)

■大学等の高等教育機関を通して実施された障がい学生431人を対象とした調査 (2020年12月~2021年1月)

- 今後のオンライン講義の希望: **障がい学生全体 55.6%**
- 障がい種別: **視覚障がい (弱視) 75%、ASD 60.3%、ADHD 52.1%、SLD 77%、気分障がい 51.2%、神経症性障がい 70.0%、統合失調症等 85.7%**
- 障がい種別: **肢体不自由 39.3%、聴覚障がい 38.0%**

6

オンライン授業に対する**障がい学生**の意識 (筑波大学・JASSO, 2021)

■大学等の高等教育機関を通して実施された障がい学生431人を対象とした調査 (2020年12月~2021年1月)

■高評価◎、低評価×の自由記述の一例

◎対面で必要になった合理的配慮がなくなって他の学生と同じ条件で受けられること (視覚障がい)、授業参加がしやすくなることで勉強の楽しさも分かり学習意欲が増加した

◎資料提供が一斉に対応され学習しやすくなった (SLD)

◎チャットで話すのが楽 (言語障がい)

◎感覚過敏がひどい時でも授業の受講が可能である (ASD)

×疲労しやすい、質問にくい

×課題が多い割に学習効果は対面授業と同じか、それ以下 (摂食障がい)

×対面授業のほうが良い教員が障害学生の存在を認識できずに合理的配慮が提供されなくなる (ASD)

×問題が起こったときに1人ですべて解決する必要がある (視覚障害: 弱視)

調査から考えられること

- オンライン講義の講義形態 (オンデマンド、リアルタイム、資料・課題提示方式) による満足度の違いが推定される
- 一般学生・障がい学生ともに、動画受信の不具合などネット環境の影響を受けやすい点やコミュニケーションの不足しやすさはデメリットとして共通している
- 障がい学生の方が、オンライン講義に肯定的な評価をしていると推察される
- 障がい種別による特徴、個別性も高いため、障害学生にはオンライン講義がメリットという判断には慎重が必要

8

調査結果やオンライン授業下の支援を通して考えられること

- ネット環境の影響、コミュニケーション不足になりやすい問題はあるが・・・
- ❖ 多様な障がい学生には、オンライン授業に合わせた個別の合理的配慮が適切に提供されれば、オンライン授業自体がユニバーサルデザインの授業形態になりうる
- ❖ ユニバーサルデザイン化に向けての重要な役割をオンラインという道具が果たすと期待できる（筑波大学・JASSO, 2021）



- 障がい種別に問わず、対面授業と同様にオンライン授業においても、ユニバーサルデザインの学習環境は、一定度の有効性は高いと考えられる
- オンライン授業は、障がいによる社会的障壁を乗り越える鍵の1つとなりうる（JASSO・筑波大学, 2021）

目的

- ブレンデッド教育における障がい学生への対応について共有する
 - ➡ オンライン授業におけるユニバーサルデザイン
 - ➡ オンライン授業と心身の健康への影響について知る
- ブレンデッド授業下における学生のニーズを知る
 - ➡ 障がいのある学生にも学ぶ機会を保证するため
- 対面授業のオンライン授業への変更について考える

10

ハイブリッド型授業における障がい学生へ声とその対応 —障がい種別—

PROS

- ・ オンライン授業のおかげで前期は単位がすべて習得できて、勉強に対して自信を持つことができた
- ・ 単位習得が進んで、卒後の就職など、将来のことを考えることができたようになった
- ・ 対人コミュニケーションが苦手なので、対面授業は緊張も高く疲れるが、授業理解は高まる点は良い

CONS

- ・ 対面が必須の授業に出席できていない
- ・ 対面授業が続くと、出席を続けられるか不安がある
- ・ 自分はオンライン授業なら参加できるがそうでなければ無理であることを改めて悟ってしまった
- ・ 対面とオンラインが混在する曜日があり、その日は学内で過ごす場所に困る

11

オンライン授業における配慮内容

講義	● 質問やディスカッション等はチャットの利用を認める ● 自分の顔を写さないことを認める（写真等に変える）
連絡	● 重要事項は配布資料に明記し、必要があれば掲示板やメール等その学生が見やすい方法で連絡をする ● 課題提出状況などで出欠を確認し、必要があれば個別に連絡をとる
課題・評価	● 課題量、内容、提出期限について適宜調整をする



ユニバーサルデザインでカバーできることが多い
オンライン授業と相性がよい面もあるが、状態把握のため、定期的な連絡が大切！

13

オンライン授業における配慮内容

講義	● できるだけ文字や画像を用いて視覚できるものにする ● できるだけ視覚情報と聴覚情報を一致させる。 （例）資料を読む時間を設ける（事前に配布する） スライドを読み上げてから補足説明をする →混在する場合は、理解の確認のため適宜対象学生に声かけ（チャットなどで）できるとよい ● 動画視聴では、字幕があってもついていけないことがある。別途テキストデータを用意することが望ましい ● 動画や画像、資料は学期中はいつでも閲覧可能にする ● ディスカッション等はチャットでの参加を認める
----	--



講義に関してはユニバーサルデザインでカバーされることが多い

オンライン授業と相性がよい面がある！

15

発達障がいのある学生の ハイブリッド型授業に対する声

PROS	CONS
・ オンラインと対面を選択できる科目があるのは便利。対面必須の授業がある曜日は通学をしているが、曜日によって通学するかしないか調整することでスケジュール管理ができています。 ・ 就職活動をしていると、オンライン授業の直前までオンライン就活イベントに参加できるので、オンライン授業を選ぶことで助かっている。 ・ 課題提出をメールでできること。対面だと持参しなければならず、課題をしても持参することをよく忘れていた。 ・ 授業に出席すること自体が難しく課題も提出できていなかったが、メールで課題ができたらずくに提出できることが助かる。 ・ 朝の準備や段取りが苦手なため、後期から対面になることを心配していたが、毎日通学しなくてよいのは楽。（週1通学） ・ 課題量が前期よりも減った	・ 友人を作りにくい。 ・ 先生に気軽に質問できない。メールが嫌いなので、質問をあきらめる。 ・ 資料が印刷できないと画面上でしかみられないので授業で手間取る。 ・ アクセスポイントがわからずとりあえず空き教室を使っている。 ・ 家では課題等に集中できないため、学部には設けられている自習室や図書館を利用したいが、席が間引かれているため満席のことが多い。

14

オンライン授業における配慮内容

連絡	● 重要事項は配布資料に明記し、必要があれば掲示板やメール等その学生が見やすい方法で連絡をする ● 学生とのコミュニケーションツール（LMS(Moodle等)、メールなど）は複数使用せず、できるだけ一本化して明確にしておく
課題評価	● 課題が重なった場合には、計画的に行うことの難しさから提出期限の延長が必要になることがある



授業外の課題量の増加によるスケジュール管理や、必要な情報へのアクセス面での課題が浮き彫りになってきている

対象学生の状況を適宜、把握することが大事！

16

視覚障がいのある学生の ハイブリッド型授業に対する声

PROS	CONS
- 対面授業では、授業担当教員に配慮依頼の確認等がしやすく、質問も気軽に行うことができる。 - オンライン授業のライブ授業でも、スライドが近くなるので、見やすい。 - オンライン授業は、移動しなくても良い分、外出準備に時間がかからず、気分的に楽。	- オンライン授業では、質問するタイミングがわかりにくく、チャットでの質問も、本意を伝えることが難しい場合がある。 - オンライン授業を受講した際、ZOOMのURL、PWを入力ミスし、なかなか入室できないことがあった。 - オンライン授業を教室で受講しないといけないうるさく集中できなかった。

17

オンライン授業における配慮内容

講義

● 講義資料に関する配慮

- 読み上げソフト、点字を使用する学生（全盲等）
 - 読み上げ可能なテキストファイルに変更し、事前提供する
 - 図・表・写真は、詳細をテキストで追加する（パワーポイント資料は、スライド番号を表記し、word等でまとめることが望ましい）
- 電子ファイルの拡大機能を利用する学生（弱視等）
 - できる限り図表を見やすいように大きく作成
 - 事前に資料を提供

※事前提供していない資料を、画面共有機能を用いて表示する場合は、口頭で丁寧に説明してください。

18

オンライン授業における配慮内容

機器操作	● 学生がZOOM等のアプリ・システムにアクセス可能か確認する →読み上げソフトが対応していないこともある
課題評価	● 課題が重なった等の事情で、提出期限の延長が必要になることがある

障がい固有の配慮が明確にある！

19

聴覚障がいのある学生の ハイブリッド型授業に対する声

PROS

- ・対面授業が増加することで、目に対する負担が減少した。移動することで気分的にもリフレッシュすることができる。授業に関しても、対面のほうが興味関心を持って受講することができる。
- ・ある授業（オンライン授業）は全学生、チャット機能のみでディスカッションを行っている。対面授業でのディスカッションでは、なかなか話についていけず、事実上の参加ができなかったが、この授業では、自分自身の意見を述べ、ディスカッションに参加できている。
- ・オンライン形式のゼミでは、チャット機能は使用していないが、一人ひとりが音声認識の内容を確認しながら進めているため（修正は学生同士で行っている）、ノートテイクを配置していなくても、参加できている。
- ・オンライン授業では、音声がかかることが（複数人が同時に話す）少なく、情報保障しやすい。

CONS

- ・遠隔ノートテイクは、文字情報・ZOOMを1つのPC上で見ないといけないため、目に対して大きな負担がかかる。
- ・オンライン授業では、課題をこなすのみの活動になってしまい、授業そのものに、興味をもつことが難しい。
- ・遠隔ノートテイク・音声認識では、インターネット環境が必要になるため、脆弱な環境では、スムーズに文字保障することができない。
- ・映像と音声が入っている動画は、読み取りが難しく、内容理解がにくい。
- ・PCの機械音は聞き取りが困難な場合がある。

20

オンライン授業における配慮内容

- | | |
|----|---|
| 講義 | <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手の表情・口元が見えるように配慮する（例:マスクを外す等） ● 講義資料は、できる限り文字情報を多くする ● 録画授業や音声、動画教材は、できる限り字幕を挿入する ● リアルタイムの講義は、録画を行い、文字起こし（もしくは字幕つけ）を行った上での提供を原則とする ● ディスカッション等を行う場合は、科目担当者より事前に本人及び支援室に連絡する必要がある |
|----|---|

※ディスカッション等のため、リアルタイムの参加が必要な場合、当支援室では、今後、遠隔パソコンノートテイクの実施も検討中

障がい固有の配慮が明確にある！

21

肢体不自由のある学生の ハイブリッド型授業に対する声

PROS

- 対面授業の際に自身の障害を友人が受け入れてくれているということがわかり安心した（片麻痺）。
- 週に1回の対面授業であるが来年度の対面授業が増えることを想定して、大学に通学するイメージが持て、体を慣らす意味でも助かる。（片麻痺）。
- 対面授業（実験、作業）で分からない事をすぐに質問でき、オンライン授業のときよりも作業が捗り、理解が進みやすい。

CONS

- ネイティブの講師の授業で聞いて書く作業があったが自身の書字スピードが他者より遅いということがはっきり分かった（片麻痺）
- 3限目のみ対面授業の際でも2限目にオンライン授業があり、自宅を早く出る必要がある。

22

オンライン授業における配慮内容

- | | |
|------|--|
| 機器操作 | <ul style="list-style-type: none"> ● 肢体不自由の学生は、筆記がスムーズではない場合があることから、特に標準的なマウスキーボードでなく、専用の入力装置を用いている場合には通常よりパソコンの操作にも時間がかかるため、授業のスピードを考慮する必要がある |
| 講義 | <ul style="list-style-type: none"> ● 肢体不自由の学生に発言や反応を求める場合、できるだけ適切な方法を事前に確認する ● 重要事項は配布資料に記載するようにする |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 課題量、内容、期限について適宜調整する |

対応としてユニバーサルデザインや他の障がいへの配慮と共通することも多いが、質感は異なる！

23

病弱・虚弱のある学生の ハイブリッド型授業に対する声

PROS

- **授業以外で友人と関わる（休み時間のおしゃべり、ランチ）事ができる**
- 対面授業はオンライン授業のときと比べて、**課題の負荷量が少なくなった**（特に教養科目）
- 目の前に先生がいて積極的に勉強でき集中できる。
- オンライン授業では、体調不良のときでも参加しやすい。

CONS

- 体調不良の際にも大学へ通学する必要があり身体に負担がかかる事がある

24

オンライン授業における配慮内容

- | | |
|----|--|
| 講義 | <ul style="list-style-type: none"> ● 体育や演習などの実技を伴う対面授業の場合、代替措置（課題の設定、レポートなど）を講じることが必要 ● 定期的な通院や発作など急な体調不良の際には、対面・オンライン授業に関わらず授業を欠席する可能性あり。代替措置を講じる事が必要となる場合がある |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッド型授業（同日にオンライン授業と対面授業を受講）が多くなる事で身体に負担がかかる場合は課題の提出の延長など必要に応じて個別に連絡をとる必要がある ● 課題量、内容、期限について適宜調整する |

個々の疾患の特性，受診や体調に応じた配慮が必要

25

ハイブリッド型授業下における学生の反応（まとめ）

- ◎身体的負担減：PC視聴時間が減って、目の負担が減った。対面授業が増えて、課題量が減ったこと等が背景
- ×身体的負担増：対面授業となり、移動が伴うことによって疲労が高まりやすい学生(病弱・虚弱)や、移動に困難差のある学生(視覚障がい)
- △学習意欲の向上：質問などもすぐにはできるため授業理解が高まると感じる学生もいる。対面授業の教育効果の可能性。一方で、対人緊張の高い精神障害学生にとっては、対面のハードルは高い
- △学習環境：同日にオンラインと対面の両方の授業形態を受講する日がある場合、自宅学生と一人暮らし学生によって影響がことなる

26

ハイブリッド型授業下における学生の反応（まとめ）

- ◎周囲の障害理解の向上：身体障がいの一部の学生は対面授業で、他の学生に自身を持って知ってもらえる機会が増えた
- ◎効率的なスケジュールリング：オンライン授業
- ◎自己理解の向上（肢体不自由学生）：学内・建物内を車椅子で動いたりできることで、(対面がベースに戻る?)次年度以降でどのような支援が必要となるかのイメージができる
- ×学習環境：アクセスポイント、自習室/図書館が（間引きされて）満席となっているので、希望する場所で利用しにくい。また部屋によっては騒々しいため、利用しにくいことがある

☆ オンライン授業と対面授業のメリットやデメリット：一般学生と障がい学生には共通点と相違点がある

教職員として対応できること

- ユニバーサルデザインの学習環境の提供
- 障がい学生への合理的配慮
- 学部新1年生や他大学から入学してきた新大学院生は社会的リソースも限られ、社会的にも精神的にも孤立しやすい
 - ➡授業内外で交流の場を設定する
 - ➡定期的に個別に連絡を取る
 - ➡相談窓口の紹介や促し
- 難病のある学生、SOGI(Sexual Orientation and Gender Identity)に関する学生、留学生、高齢学生なども同様に孤立しやすい

❖ 学生を孤立させない対応を！！

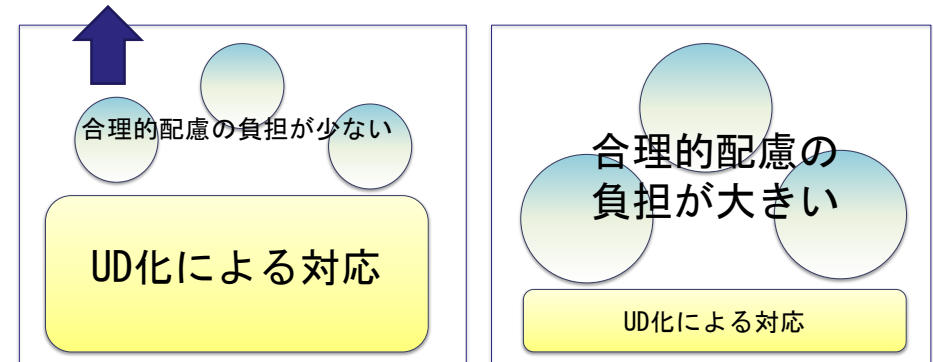
28

オンライン授業における ユニバーサルデザイン

29

教育的配慮/対応(ユニバーサルデザイン) と合理的配慮

支援の質も向上



教育環境パターン1

教育環境パターン2

30

オンライン授業における対応の工夫 講義資料作成時 「読む」「見る」

- 図や表を用いる際には、その説明も加える
- 文字数やサイズ、行間は適宜読みやすいように考慮する
- 色覚認知が弱い学生を考慮し、**強調部分では色を用いず、できるだけ太字、下線を引く**
- 講義資料内で重要事項を通知する際は、「課題内容」「提出方法」など見出しや別途スライドを付ける
- 教育の質の担保のため、適宜補足資料の提供や参考資料を紹介する

31

オンライン授業における対応の工夫 音声による講義（動画や同期配信含む） 「聞く」と その他「並行作業」

- 指示語はなるべく控える
- 極端に早口にならないように気をつける
- あいまいな表現を用いず、具体的かつ明瞭に話す
- 使用する資料・テキスト等のページ番号を述べてどこの何を説明しているのかわかりやすくする
- 図や表・映像を使用する際はその概要を説明する
- 話す時は適宜休憩を入れるように意識する
- 学生の理解に合わせ、動画やスライド以外の資料を適宜準備する

32

オンライン授業における対応の工夫 課題提出や評価について

授業形態により通常よりも課題量が多くなることが懸念される

- 授業時間以内で終了できるように課題量を検討する
- 課題量の調整や提出期限の延長など、柔軟に対応する
- 提出期限が短いレポート作成は、筆記や操作に時間がかかる可能性を考慮し、できるだけ期限に余裕を持たせて設定する
※小テスト等時間制限のある課題は、適切な時間延長や別途時間を設けるなどの対応を行うことが望ましい

33

オンライン授業における対応の工夫 学生との連絡方法について

- 講義に関する質問などを受け付けられることを、適宜、通知するとともに窓口を明確にしておくことが望ましい
(例：…@osaka-u.ac.jp)
- 講義中の質問は、オンラインやチャットで対応する
- 重要事項（講義や提出物など）についての連絡は、LMS(CLE等)、メールなどによる通知が望ましい
- 学生とのコミュニケーションツール（LMS(CLE等)、メールなど）は複数使用せず、できるだけ一本化して明確にしておく

34

オンライン授業における対応の工夫 資料・課題作成時の文字のフォントについて

■UDフォントについて

- 明朝体・教科書体：一般的には推奨されない
 - UDデジタル教科書体：推奨
 - 丸ゴシック体、メイリオ：推奨
 - 英数字：Helvetica、ArialおよびVerdana 推奨
 - 基本的には、1文字内に太さが違う線が用いられていると「認識しにくい」とされる
- 太字のフォント：フォントサイズが小さいと逆に見づらい
 - フォントサイズと太さのバランスに気をつけることが大切

■フォントの適切さ：障がい種やその程度によって変わり、作成者の好みも関係。適切なフォントについて、当該学生と一緒に検討するのも1つ

オンライン授業と心身の健康 ～長時間のICT機器の使用について～

- 目の疲労、肩こり、腰痛、難聴、運動不足などのリスク
 - 照明の暗いところや明るいところでの視聴は、目の疲れを早める
 - 長時間同じ姿勢を取ることによる腰痛や肩こり
 - 長時間の集中した視聴は、ドライアイの危険にもつながる
 - イヤホンで大音量を繰り返し聴くことは、騒音性難聴のリスクも高める（ヘッドホンの方が少し安全）



- 同期型で実施の場合は30～35分毎に、身体を動かすワーク(深呼吸、伸び、立位の視聴等)や、休憩を入れる等、間を空ける
- 非同期型であっても、スライドにアナウンスをいれる等して、長時間同じ姿勢での視聴についての注意を促す
- 定期的な個別のフォロー
- 詳細については後述のスライド（障がい種別）を参照

36

オンライン授業と心身の健康 ～視聴覚に依存する授業形態～

■視聴覚に頼る授業に伴うリスク

- 視聴覚に困難さのある学生にとっては、合理的配慮の提供（字幕付けや文字起こしなど）があってもストレスフルな環境であり、学習への動機づけが低くなる可能性もある
- 聴覚障がい学生曰く、「なぜかわからないが、対面に比してオンラインは文脈を感じ取りにくい」
- 録画やスクリーンショットが容易なので、どの学生にとってもプライバシーの問題が生じやすい



- 学生のニーズをしっかりと聞き取りしたうえで、対応や支援を検討すること
- 定期的な個別のフォロー
- 学生・教職員のプライバシーの取り扱いルール設定

37

オンライン授業と心身の健康 ～敏感性の高い学生～

■視聴覚情報の刺激過多による影響を受けやすい人

- 発達障害（感覚過敏）
- 精神障害（状態が不安定なときに敏感になりやすい）
- HSP(Highly Sensitive Person)

■どんな時に？

- モニター画面が明るすぎて見るのが辛い（視覚過敏）
- 画面の情報量の多さに疲れる（視覚過敏）
- PCの電子音やオンラインの音声が不快（聴覚過敏）



- 学生自身から「疲れる」/「しんどい」と意思表示できるように、教員側による普段からのアナウンスなどの発信
- オンライン背景画面の工夫:参照 <https://kabin.life/archives/1609>
- 適宜、授業時間中に休憩/間を取る、オンライン時間の調整

まとめと課題

■学生の声は、一部の障がい学生の声なので、一般化して理解することはできない

- 同じ障がい種であっても個人差が大きいため、一人ひとりのニーズに寄り添うことが必要となる
- 障がい学生は一般学生よりも、心理的負担を抱えやすく、その処理も苦手なことが多い
- 環境の変化にも影響を受けやすい

■障がい学生はオンライン授業へのニーズが高く、対面授業中心とシフトしつつある現状に対しての不安が高い

■学部ごとや学年の違いで、対面メインの学生とオンラインが中心の学生が混在する

- 授業内容や教育の本質の違いがあるため、仕方がない部分ではある。しかし、学生によっては不公平感を抱く場合がある

39

対面授業をオンライン授業に変更するとは？
教育的対応 OR 合理的配慮 ？？

40

対面授業からオンライン授業への変更を希望する 学生の背景

- 基礎疾患を有する障がい学生とは別に、精神障がいや発達障がいの学生からのニーズが高い
 - 大学に行かなくてもよい
 - しんどいときは横になりながら、少し休みながらでも受講できる
 - 定刻の時間割に合わせなくても、受講できる
 - 人との接触が少なくなるため、ストレス反応が小さくなる
 - レポートや課題の提出がオンラインのみで対応できる
- 大学設置基準におけるオンライン授業の卒業要件参入単位数として60単位はあるが・
 - 一般学生が対面授講、障がい学生がオンライン受講した場合の判断基準はない

41

本学の現状

- 教育企画課のコロナ禍による全学的な教育的配慮としてのオンライン受講の申請（教育企画課：受付窓口）
- 阪大HP マイハンダイ
 - 【在学生、保護者向け】新型コロナウイルス感染症への対応のページに記載
 - https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/info/corona/corona_ou#jyugyou

アクセシビリティ支援室と部局が連携する障がい学生への合理的配慮の申請（部局担当窓口への申請）と混同され、混乱が起きている（教職員も学生も）

42

対面授業に不安を抱える学生の皆さんへ（本学の教育的な配慮について）【令和3年3月23日更新】
令和3年度春学期・夏学期の対面授業の履修にあたり、正当な理由がある学生（※）に対しては、履修上不利としないよう配慮を行います。

このような教育的な配慮の申請を希望する学生は、KOANの掲示板の案内により申請してください。

配慮申請期間

在学生：令和3年3月23日から令和3年8月31日まで
新入生：令和3年4月1日から令和3年8月31日まで

（※ 正当な理由がある学生について）原則として、妊婦、高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある、透析を受けている、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている等新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いことや、通学に著しい不安を抱えることを指しますが、大学に通学し対面授業を受講することが困難等の事情のある学生についても対象とします。

本件問合せ先

教育・学生支援部 教育企画課（配慮受付窓口）
covid-19_hairyo[at]office.osaka-u.ac.jp
※ アドレスの[at]は@に変更してください

障がい有無関係なく、不安の高い学生は対象になると読み取れる

43

対面授業からオンライン授業への変更 留意点

1. 障がい内容・特徴との整合性
 - 障がいとオンライン受講という配慮は理論的に関係するかどうか（JASSO・筑波大学, 2021）
2. 学生のニーズがあるかどうか
 - 学生としての下記の責務を果たせる心身の状態かどうか
 - ある程度の授業への注意集中・授業理解、ある程度の出席、ある程度の課題・レポートへの対応
3. 授業（実験・実習等）の教育的本質を担保できるかどうか
 - オンライン受講により授業の到達目標を損ねるかどうか（JASSO・筑波大学, 2021）

現在、キャンパスライフ健康支援センターでは、対面授業をオンライン受講へと変更する合理的配慮を認めていない！！

最後に

- 本日話した内容を全てに対応することは、大きな負担と感じられるかもしれません
- 最初から完璧を目指す必要はありません。まずは可能な範囲での対応や、意識するだけでもOKです
 - ただし、授業担当として配慮依頼通知が届いている場合は、合理的配慮は法的義務になりますので、それは除外
- 教育環境が十分ではないときは、個別に学生にフォローして声をかける、どうすればよいかについて学生と話をしてみてください。それだけで学生が安心するでしょう
- 学生の対応など、先生方での困りごとは、遠慮なくキャンパスライフ健康支援センターまでご相談下さい。

45

便利なウェブサイト

- 全学教育推進機構 教育学習支援部 オンライン教育ガイド

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/top.html>

46

アンケートにご協力をお願いします

- 本学の障がい学生支援体制に関するアンケートです。支援ガイドラインの改訂につなげるために実施しております。下記のURLにアクセス下さい。
- <https://my.osaka-u.ac.jp/admin/hacc>

47